

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査結果の概要と今後の取組について

丹波市立山南中学校

### はじめに

4月19日（火）に、中学3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査結果の分析を行いましたので、その概要についてお知らせします。保護者の皆様にお知らせすることにより、学校と共に生徒の学習について考えていただく機会にしたいと思っています。本校では引き続き、すべての生徒が「わかった!」、「できた!」と実感できる授業や、すべての生徒が主体的に取り組む授業をめざしての授業改善を推進していきます。

### 1. 調査の概要

#### (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ります。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。
- 調査全体の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

※なお、本調査によって測定できるのは学力の特定の部分であり、学校における教育活動の一側面です。よって、改善策を考える際は、本調査で測れていない学力や教育活動を含め、総合的に分析する必要があります。

#### (2) 調査の内容

##### ①教科に関する調査（国語・数学・理科）

- ◇身に付けておかなければ後の学年等で学習内容に影響を及ぼす内容
- ◇実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
- ◇知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力等に関わる内容

##### ②生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査

- ◇児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査）
- ◇学校に対する調査（学校における指導方法や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

#### (3) 調査日 令和4年4月19日（火）

#### (4) 調査を実施した学年 中学3年生

### 2. 学力の状況

#### 全体の概要

今回の教科に関する調査では「国語」「数学」「理科」の3教科で実施されました。調査結果としては全国の平均正答率と比較しても下回った教科はなく良好な結果でした。それぞれの教科における基礎基本はしっかりと定着していることが分かりました。ただ、分布の状況を見てみると2極化の傾向が見られた教科もあり、今後の課題と言えます。質問紙の中で昨年度、解答時間が足りなかったという生徒の割合が全国平均よりも高くでていましたが、本年度は改善傾向になり、無回答の割合も減少していました。今後も演習量の増加などさらなる改善を図っていきたいと思います。各教科の分析は次の通りです。

## 国語

【全国平均を上回りました】

○定着が見られた項目、▲課題が見られた項目

全体的に良好な状態で「話すこと」「聞くこと」「読むこと」においてその傾向が強く出ていました。「書く」領域においては表現の仕方や工夫などに、また言語文化に対する項目で改善点が見られました。

### 【成果と課題】

- 文脈に即し漢字を正しく書く項目では知識のしっかりとした定着が見られました。
- 「読むこと」に関して場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する項目でも高い定着が見られました。
- ▲資料を引用し、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題では課題が見られました。

### 【成果の要因】

- 「毎漢」の取組や、「やまなみチャレンジ」の実施により、日ごろから漢字や熟語の習得に取り組んでいる成果が表れていると考えます。
- 説明的文章だけでなく、文学的文章でも本文に出てくる人物描写や情景描写を客観的に読み取ってきた成果が表れたと考えます。

### 【課題改善の方向性】

- 自分の意見や考えを書く課題は感想文や意見文で取り組んでいます。さらに文章を読み取ったうえで条件を付けて「書く」課題を

## 数学

【全国平均を上回りました】

○定着が見られた項目、▲課題が見られた項目

全国の平均正答率と比較すると、どの領域も概ね良好な結果で、問題形式別にみると短答式の正答率が高く基本的な知識や計算力が定着していることが分かります。

### 【成果と課題】

- 「数と式」の領域の正答率は高く、式や方程式を処理する力は優れています。
- 「関数」の領域についても、事象を一次関数ととらえて、問題解決の方法を数学的に説明する課題に力がついていることが分かります。
- ▲「平行四辺形になる条件について正しく述べた説明を選ぶ問」「箱ひげ図から正しく情報を読み取っている説明を選ぶ問」などについては、正答率が全国平均を下回り、「図形」の領域で課題が見られました。

### 【成果の要因】

- 1, 2年生時に複数指導を活用して、生徒のつまずきや困り感に寄り添う指導体制をとっていたこと。また、全校を挙げて取り組んでいる「やまチャレ」が、基本的な計算力の定着につながっていると考えます。

### 【課題改善の方向性】

- 図形の性質や証明を学習する際に、数学的な言葉を用いて説明したり、協力して証明を完成させたりするなど覚えたことを出力する機会を増やすようにしていきます。
- 図を書いて終わりにせず、図からデータを読み取らせる課題にも取り組ませ、身近なデータを利用するなど、生徒の興味をひく教材の開発にも取り組んでいきます。

## 理科

【全国平均と同程度でした】

○定着が見られた項目、▲課題が見られた項目

「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点別では、生物・化学・物理・地学の分野を問わず正答率の上昇が見られました。特に、生物分野での「思考・判断・表現」に関する正答率が大きく伸びていました。また、無回答率も低く、改善が見られました。

### 【成果と課題】

- 全ての分野において、基本的な知識理解の定着が見られました。
- 「粒子」や「生命」を柱とする領域で知識の定着が見られました。
- ▲「エネルギー」を柱とする領域や「地球」を柱とする領域でやや課題が見られました。

### 【成果の要因】

- 実験や観察を多く取り入れることで主体的に学ぼうとする生徒が増えたと考えます。
- 基礎的な知識の定着を図ったことで、得た知識を科学的な思考のもとで活用するための力の伸びにつながったと考えます。

### 【課題改善の方向性】

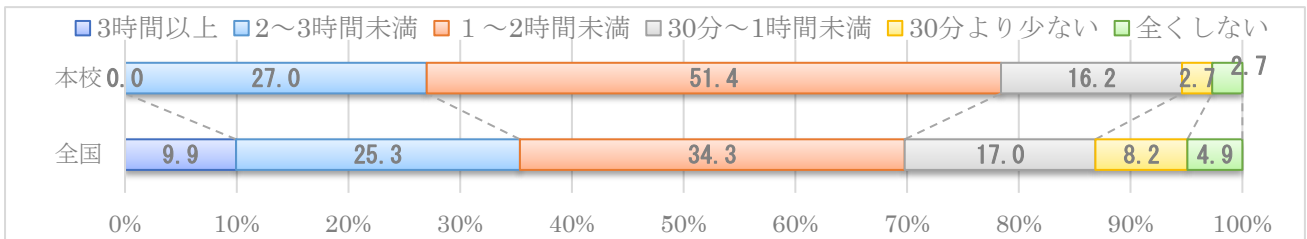
- 実験、観察を多用し、身近な現象などを取り入れるとともに予想や仮説を立て取り組んでいくようにしていきます。
- 生徒の主体的な調査資料をもとに、討論やグループでの検証の場を設け、対話的な学習の場面の増加に取り組んでいきます。

### 3. 学習や生活の状況（生徒質問紙調査より）

#### 家庭学習・家庭生活

#### Q&A

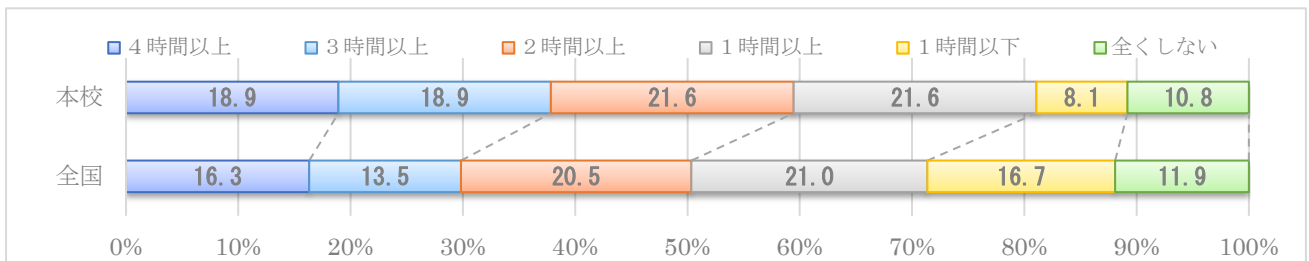
質問 学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれぐらいの時間勉強をしますか。



昨年度同様、家庭での学習時間が30分より少ない生徒の割合は平均値より少なく、「毎漢」や「やまなみチャレンジ」の取り組みの成果ではないかと考えます。しかし、2時間以上の割合は全国平均を下回り、昨年度と比較しても10%ほど減少しました。次のデータが影響しているのかもしれませんが。

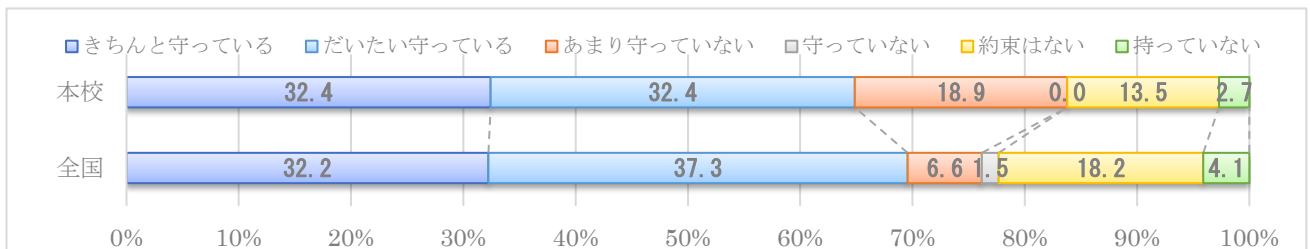
#### Q&A

質問 普段（月～金）1日当たりどれぐらいの時間、テレビゲーム（PC、携帯型、スマホなどを使ったものを含む）をしますか。



#### Q&A

質問 携帯電話やスマホ、PCの使い方、家の人と約束したことを守っていますか。

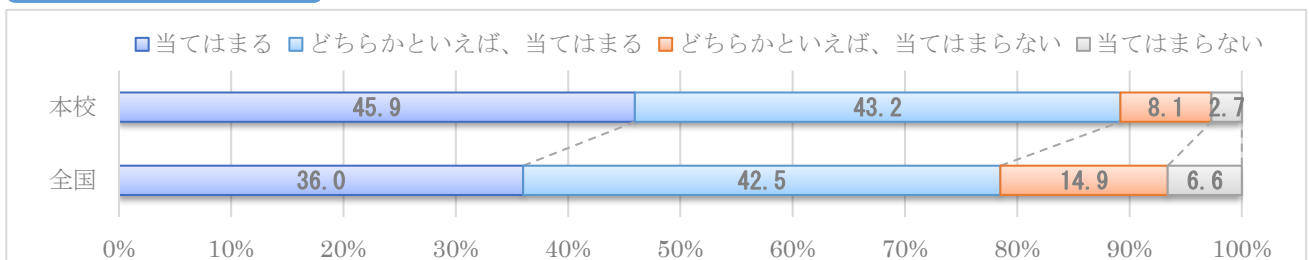


普段、テレビゲームなどに費やしている時間が全国のデータより多くなっています。SNSの使用や動画の視聴などはまた別の問があり、合計するとかなりの時間を費やしていることになります。近年、SNSに関係したトラブルも増加しており、はじめある使い方が重要になってきます。

#### 学びに向かう力

#### Q&A

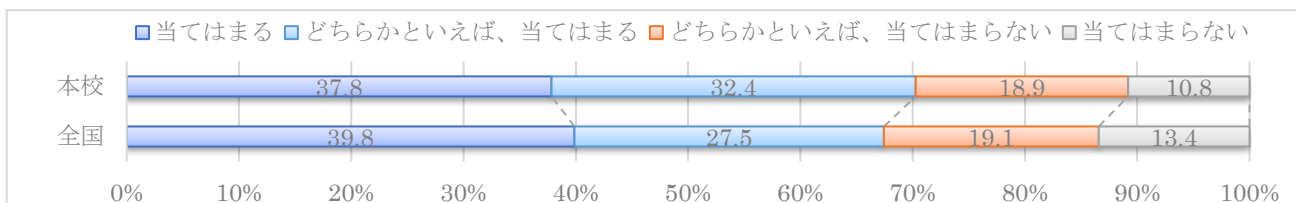
質問 自分にはよいところがあると思いますか。



自己肯定感は学びに向かう力と大きく関係があり、ひいては学力にも影響してきますが、本校では高い数値を記録しました。よいところを積極的に認めていくことやアントレナーシップ教育に取り組み自分たちで何かを成し遂げる体験をしたことがこのような結果につながったのでは考えます。

## Q&A

【質問】 将来の夢や希望を持っていますか。

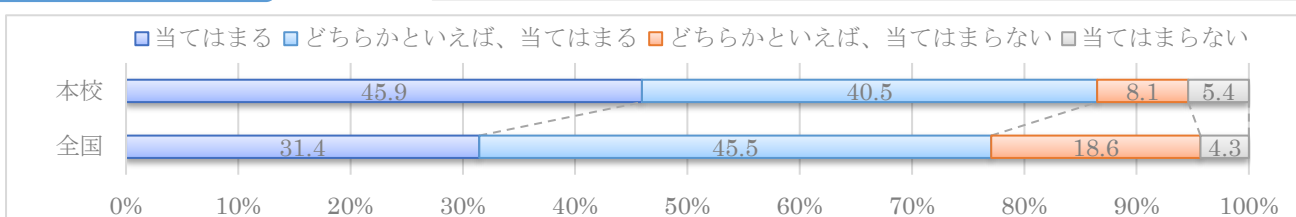


自己肯定感の向上とともに「将来の夢や希望を持っていますか」の問いに対しても肯定的に答える生徒の割合が増加しました。特に否定的な生徒の割合は、昨年度は全国の平均値よりやや多かったのですが、今年度は減少傾向が見られ、キャリア教育の成果だと考えます。

## 対話的で深い学び

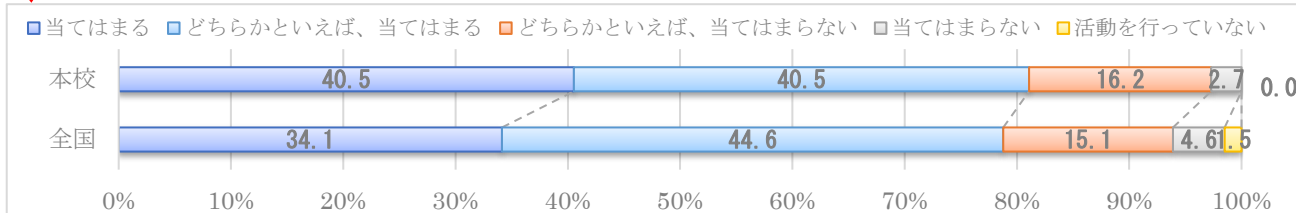
## Q&A

【質問】 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思えますか。



## Q&A

【質問】 学級の生徒と話し合う活動で自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。

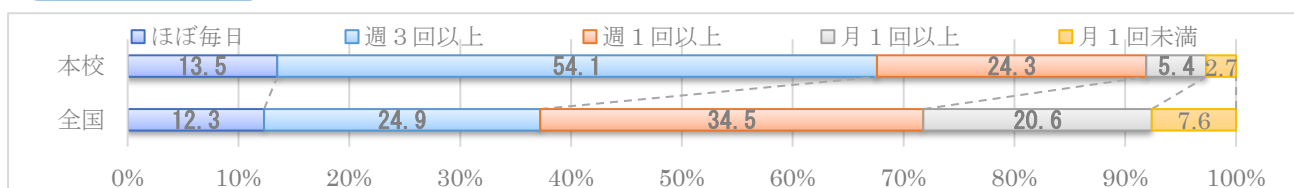


ペアトークやグループ討議など対話的な学習活動が定着してきたのかなと考えます。違う意見を知り、取り入れることは自分自身の視野を広げることにつながります。今後とも対話的な学びの機会を設け、深い学びにつながる活動を積極的に取り入れていきます。

## ICT の活用

## Q&A

【質問】 学校で、授業中に自分で調べる場面で、ICT 機器をどの程度使っていますか。



学校にタブレットが導入されて以来、子どもたちの活用スキルは日に日に向上しているように感じます。これからの未来を生きる子どもたちにとって ICT の活用能力は必須の力だと言えますが、その分、使用時間であったり、情報モラルの徹底なども合わせて取り組んでいく課題だと考えます。

## 《終わりに》

本校ではここ数年、「授業のユニバーサルデザイン化」を学力向上の核に据え全教職員で取り組んできました。そして、その成果も出ていると考えております。そして、来年度はいよいよ和田中学校との統合を迎えるにあたり、学力向上に向けての研修会を双方で交流するなどの取り組みを進めてまいりました。来年度以降も、両校の良い所を残しながら子どもたちの学力向上に取り組んでいきますので、今後とも引き続き、ご協力をお願いします。